

日本地震学会による海外渡航旅費助成を受け、2012 年 12 月 3 日から 7 日まで San Francisco Moscone Center で開催された AGU Fall Meeting に参加し、ポスター発表を行ってきましたので報告致します。国内で開かれた国際学会に参加したことはありましたが、国外で開かれる国際学会に参加するのは初めての経験でした。

学会初日、Moscone Center に到着して、その会場の規模の大きさと人の多さに驚きました。私の発表は学会 2 日目でしたので、下見の意味も込めて Moscone Center South でポスター発表を見て回ることにしました。3000 枚弱ものポスターを貼れるような巨大な会場の中、様々な国の人が入り乱れて、英語で活発に議論する姿を目の当たりにしました。学部時代の友人とも偶然再会を果たし、研究内容を説明してもらいました。私同様シミュレーションを用いた研究を行っていたので、計算処理の方法を質問し議論しました。学会初日終了後は、翌日に備え、発表の際に使えるような表現を英作文しました。

学会 2 日目、マリオットホテルで開かれた Student Breakfast で朝食を済ませ、ポスター会場へ向かいました。私は、'Extended Boundary Integral Equation Method (XBIEM) for Rupture Dynamics Interacting with Medium Interfaces - Mode III Implementation in a Bimaterial - 'というタイトルで、Seismic Rupture and Fault Zone Properties セッションで発表しました。内容は、「従来均質媒質中に限られてきた準解析的な破壊計算手法である境界積分方程式法 (BIEM) を、不均質媒質中で取り扱えるように拡張し、その手法 (XBIEM) の妥当性の確認を行った上で応用計算の結果を示す」というものです。幸いなことに非常に多くの方が来てくださり、気付いた頃にはコアタイムの時間は過ぎ去っていました。

今回の発表を通じて強く印象に残ったことは、海外の研究者の発表を聞く姿勢です。私が示す結果一つ一つについて、'Good.' と彼らは言ってくれました。ニュージーランドの大学の方は「不均質媒質中の動的破壊計算は重要だから、この研究は非常に意義がある。」という主旨の言葉をかけてくださり、定式化のことまで熱心に質問してくださいました。またフランスの方には「この新しいスキームは、尤もらしくて素晴らしい考え方だと思う。」と言ってもらえました。私の英語はお世辞にもまともなものとは言えませんが、ほとんど全ての方が内容を理解しようという気概で耳を傾けてくれ、質問もしてくれたように思います。しかし当然ながら、発表者の発表内容にただ肯定のみをする訳ではなく、建設的な批判もしてくださいました。計算チェックの項目に関して、中国の方から尤もな指摘をされたので、今後の修論執筆で確認しようと考えています。

このように、彼らの発表を聞く態度は非常に有り難いものでした。ただ、私はその優しさに甘えてはならないとも思いました。確かに、現状でも内容を伝えるだけならできますが、私の英語はあまりにもひど過ぎました。彼らと対等に議論するための英語修得が急務であり、それが最低限の礼儀であると考えました。その上で、彼らの発表を聞く姿勢を私も身に付けたいと思いました。

学会三日目以降は AGU の勝手も分かってきたので、非線形地球科学・微動・数値計算・スケーリング等々、様々なセッションでオーラル発表を聞きました。英語が母語の人ほど、スライドの字が小さ過ぎてグラフが見えない一方、東アジアの人はスライドが作り込まれていて『見ただけで分かりやすい構成になっているな。』という印象を受けました。当然のことではあるかもしれませんが、英語を母語としない人のこういった努力は大切だなと感じました。また、発表内容に関しても、最先端の研究ではどういったことを取り扱っているのか、雰囲気を読むことができたように思います。

今回の AGU Fall Meeting 参加は非常によい経験になりました。学んだことを今後の研究活動に生かしていきたいと思えます。AGU に行くことができたのも、海外渡航旅費助成

があつてのことです。このような機会を与えてくださった、日本地震学会及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。